

今号では、本年度のeALPS2.0利用状況報告やe-Learningセンターも支援している、SUNS遠隔授業の紹介をします。

昨年7月より始まりましたe-Learning Newsletterは、今号で本年度最後です。次回発行は4月を予定しております。来年度からもご愛読のほど、何卒よろしくお願いいたします。

contents

e-Learning center newsletter vol.4

2010年度 eALPS2.0 利用状況報告	1
Information	1
eALPS2.0 ログイン ID が変わります	1
SUNS 遠隔授業を配信中！	2

2010年度 eALPS2.0 利用状況報告

本年度も、eALPS2.0 をご利用いただきまして、ありがとうございました。

2008年の正式運用開始以来、着実にeALPS2.0の利用実績が増えてきております。今号では、2010年度のeALPS2.0利用状況報告をします。

左下の表は、2008年度以降の利用実績の推移です。2008年度に全学教職員向けアンケート調査にeALPS2.0をご利用いただきましたため利用教員数が多くなってはいますが、2010年度は、通常的使用方法で同じ程度の利用実績がありました。さらに2010年度は利用コース数も大きく伸びており、学部別eALPS2.0利用数(2009年度比)は、全学部で増加しております。特に、eALPS2.0の利用数は全学教育機構で最も多く、今年度、利用率

利用数推移

	2008年度	2009年度	2010年度
利用コース数	843	861	1,110
利用教員数	391	360	393
利用学生数	6,681	7,056	7,573

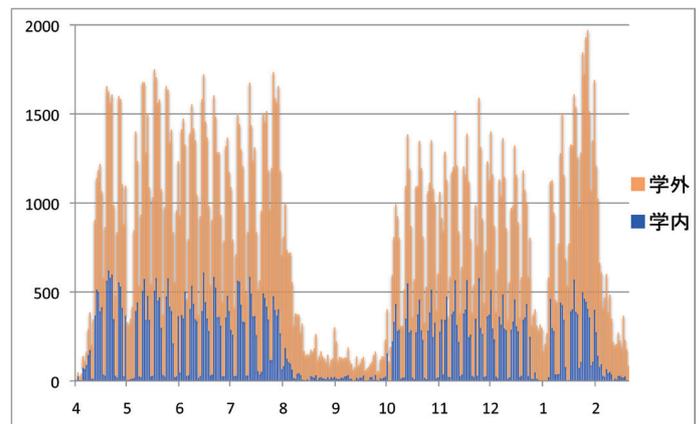
(2010年2月現在)

何らかの方法で、eALPS2.0を利用されたコース数と、そのコースにアクセスされた教員・学生数の集計

が最も上がったのは教育学部でした。

また、右下のグラフは、1日あたりの実利用者数を集計したものです。このグラフから、学内からのアクセスより、学外からのアクセスの方が圧倒的に多いことが分かります。これはe-Learningの特徴の1つである、「いつでも、どこからでも」を示しているもので、時間外に自宅からアクセスし、資料の参照やレポート提出が行われていることを示しています。

日別利用者数



(2010年2月現在)

1日あたりの学内からの実利用者数と学外からの実利用者数を集計。同じ日に、学内・学外双方からアクセスした場合には2重にカウントしています。

Information

平成23年4月から、eALPS2.0へのログインのIDが変わります

信州大学の業務システム(財務会計や給与Web明細等)が「信州大学業務システム利用者証」に記載されたID(業務IDと呼びます)で利用されています。

さらに、平成23年4月よりeALPS2.0をご利用いただく場合も、ACSUにログインしていただくIDが、業務IDに変更となります。同じようなインターフェースですが、ご注意ください。(右図参照)

現在	平成23年4月以降
<ul style="list-style-type: none"> SingleSignOn(LDAP等) <ul style="list-style-type: none"> ▶ DEEPMail SSO ▶ DEEPMail ご利用方法 ▶ 研究者総覧更新 ▶ 論文統計システム ▶ 情報配信データベース ▶ SUNS-CMS ▶ eALPS2.0科目一覧 ▶ eALPS2.0ヘルプ SingleSignOn非対応 <ul style="list-style-type: none"> ▶ キャンパス情報システム 	<ul style="list-style-type: none"> SingleSignOn(LDAP等) <ul style="list-style-type: none"> ▶ DEEPMail ご利用方法 ▶ 研究者総覧更新 ▶ 論文統計システム ▶ 情報配信データベース ▶ SUNS-CMS ▶ eALPS2.0科目一覧 ▶ 図書館ポータル MyLibrary ▶ 財務会計システム ▶ 給与Web明細システム SingleSignOn非対応 <ul style="list-style-type: none"> ▶ キャンパス情報システム
メールIDでACSUにログインすると	業務IDでACSUにログインすると

SUNS 遠隔授業を配信中!

信州大学は、長野県内 8 大学によって構成された「高等教育コンソーシアム信州」に加盟し、ICT を活用した様々な取り組みに参加しています。特に ICT 活用教育に関しては、信州大学がこれまで培ってきたノウハウを活用すべく、e-Learning センターも「高等教育コンソーシアム信州」に対して支援を行っています。その取り組みの 1 つには、SUNS と e-Learning システムを併用した遠隔授業配信があります。今年度「高等教育コンソーシアム信州」では全 24 題目が配信され、そのうち 11 題目が信州大学から県内の各大学に配信されました。そして計 85 名の他大学学生が、配信教室にいる現地の学生とともに、信州大学の授業を受講しました。

本稿では、平成 23 年 1 月 22 日（土）に開催されました「第 3 回 FD フォーラム」での実践報告を踏まえ、信州大学発・遠隔授業についてご紹介したいと思います。



実践報告 1: ドイツ語 (初級) I・II 【松岡准教授】

今年度、遠隔授業「ドイツ語 (初級) I・II」をご担当された松岡幸司准教授は、実践報告の冒頭で、「引き受けなければよかった」と後悔するほど不安だったと語られました。(1) 授業に対するイメージが湧かなかった (2) 授業の手法が思い浮かばなかった (3) 画面上の学生の表情をどう読み取って反応すればよいのかイメージが湧かなかったことが、不安を感じた主要因だったそうです。

実際の遠隔授業において、松岡准教授は、画面に映る遠隔教室の学生たちの反応に細心の注意を払いつつ、遠隔でのグループワークを通じて学生が「参加している」意識を持てるように工夫されました。しかし、「発音練習時の時差」「遠隔地学生の様子が見えない」ことが発音指導時の大きな障害となりました。

そこで松岡准教授は、各受講会場での「巡回補習」を定期的に行いました。これにより、学生に対して個別に発音指導を行い、理解度を確認できました。そして、以後の授業にその成果を活用することができ、学生の表情・反応もよくなったそうです。松岡准教授の実践報告から、「遠隔授業だからと言って常に遠隔であることにこだわる必要はなく、授業展開に応じて遠隔教室での対面授業や遠隔教室からの配信も考えられるとよい」ことがわかりました。

実践報告 2: 新聞と私たちの社会【加藤教授】

「新聞と私たちの社会」をご担当された加藤鉦三教授は「通わなくても受講できることが遠隔授業の最大のメリット」とされたうえで、SUNS を使ったゼミ形式の授業に挑戦されました。その結果、タイムラグによるターン・テイキングの難しさはあったものの、普通の対面授業と同様に遠隔でのグループワーク & 発表を実践することができ、「実は普通に授業をやるだけではないか」と思われたそうです。また、遠隔授業は「講義形式しかできない」という先入観があることを感じておられましたが、「むしろゼミ形式の方がやりやすい」ということを、はじめての遠隔授業実践を通じて実感されたそうです。

eALPS2.0 を併用した SUNS 遠隔授業の展望

いずれの遠隔授業でも、遠隔教室に対するケアには eALPS2.0 が活用されました。これにより、遠隔教室の学生に対しても対面授業と同様に資料配布や課題管理を行うことができ、「対面授業ではない」ゆえのデメリットを解消することができました。そして、遠隔授業を通じた「授業実践」に対する新たな知見が得られ、遠隔授業が FD 活動の 1 つになる可能性が示唆されました。

SUNS による遠隔授業は eALPS2.0 との併用により、普段の対面授業と同様に行うことが可能です。加えて、すべての遠隔授業は自動的に収録・コンテンツ化され、受講生に限定して e-Learning システム上で視聴できるようになっており、学生たちの授業時間外学習 (欠席した講義の補習や予復習) の促進に役立っています。

なお、平成 23 年度「高等教育コンソーシアム信州」では、前期 14 題目、後期 15 題目の計 29 題目が配信され、うち 17 題目が信州大学から県内の各大学に配信される予定です (下表参照)。

SUNS を活用した取り組みには、大学間交流を目的とした「K³ 茶論」や学生の企業研究を支援する「長野県内大学合同就職説明会」なども行われています。いずれも e-Learning コンテンツ化し、インターネット上でどなたでも視聴いただけるようになっておりますので、ぜひ一度ご覧ください。http://www.c-snet.jp/

開講期間		題目名		担当教員名
前期	月曜	4 限	R による統計学入門	鈴木治郎
		5 限	ドイツ語初級 (総合) I	松岡幸司
	火曜	5 限	キャリア形成論 I - 本当の自分を理解するステップ -	赤羽貞幸
		水曜	5 限	物理学の世界
	木曜	4 限	検索の科学	鈴木治郎
		5 限	現代ドイツの言語と日常ゼミ	松岡幸司
金曜	4 限	キャリア形成論 I - 本当の自分を理解するステップ -	赤羽貞幸	
	5 限	日本人のための日本語練習ゼミ	加藤鉦三	
後期	月曜	2 限	電子出版の現代	鈴木治郎
		5 限	ドイツ語初級 (総合) II	松岡幸司
	火曜	4 限	キャリア形成論 II - 自分の将来像を探るステップ -	赤羽貞幸 霜鳥光
		木曜	5 限	現代ドイツ事情ゼミ
	金曜	1 限	環境文学のすすめ	松岡幸司
		2 限	新聞と私たちの社会 (信濃毎日新聞寄附講義)	加藤鉦三 加藤善子
		4 限	キャリア形成論 II - 自分の将来像を探るステップ -	赤羽貞幸 霜鳥光
		5 限	日本人のための英作文練習ゼミ	加藤鉦三
	e-Learning		検索の科学	鈴木治郎

お問い合わせ先

e-Learning センター

HP : <http://elearning.shinshu-u.ac.jp/>

e-mail : elearning@shinshu-u.ac.jp

研究開発運用部門

e-mail : eaalps2@shinshu-u.ac.jp

tel: 0263-37-3230 (内線: 811-7171)

ICT 活用支援部門

e-mail : eduel-sp@certms.shinshu-u.ac.jp

tel: 026-237-6126 (内線: 831-4247)